

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
令和 6 年 5 月 17 日 提出

1. 視察概要

会 派 名	日本共産党大崎市議会議員団
視察者名	小沢和悦、木内知子、遊佐辰雄
視 察 日	令和6年5月16日
視 察 先	大崎市鳴子温泉鬼首・自生山(じしょうざん)
出 席 者	案内と説明:市鳴子総合支所地域振興課高橋課長及び佐々木課長補佐

2. 視察内容

視察項目	天然杉の山ー自生山とはどういう山か
視察内容	1、経過 本年4月18日、岩出山地区公民館で我が会派主催で開催した議会報告・意見交換会において、自然や歴史に詳しい元教員の方から、杉の天然林は全国でもほとんどと言っていいほどないが、ここ大崎市の鬼首にそれがあること、山は自生山という。ところが、大崎市はそれを全国に誇る大崎の宝とか名勝とかの扱いもせず、ほとんどの市民がその存在すら知っていない。もっとこうした宝に誇りを持てるようにすべきではないか、という意見が出されました。 我が会派内では、全く知らないことだったので、自生山とはどういう山か、杉の天然林というのは希少なものかなど調査することにし、国有林であることから営林署の許可を得、鳴子総合支所の協力を得て調査視察を実施したものです。 2、調査の結果 鳴子総合支所で用意頂いた資料と説明、鬼首山学校の大沼様の説明を頂戴し、現地に案内いただき、山に実際に入り杉の大木も見えてまいりました。要点は以下のとおりです。 (1)鳴子町史・上巻記載の「自生山のスギ天然林」より抜粋 ①鬼首山頂、秋田県沿いの自生山(884m)にはほぼ原生林上のスギ自生地がある。こうした杉林は宮城県では唯一のもの。 ②旧藩時代から保存され、現在でも営林署の学術参考保護林として自然状態を保っている。 ③高さ25m、直径60cmに及ぶ天然杉を見るのは壮観である。 ④人為の加わらないスギ原生林が全国的にも稀となった現在、自生山のスギ林は学術上・林業上極めて重要というべきものである。 (2)自生山(130.75ha)は大正13年以来「スギ希少個体群保護林」に設定されている 東北森林管理局資料によれば、大崎市江合川上流に位置する天然スギ、ヒバ、ネズコキタゴヨウ及びぶな天然林で、このうち天然杉を保存するとともに、自然の推移に委ねた場合の変化を観察。記録し、学術上ならびに森林施策上の資料とする一とされている。 (3)自生山は「水源かん養保安林」、栗駒国定公園、鳥獣保護区になっている。 3、視察を踏まえ「研究テーマ」にすべき課題 (1)「人為を加えない」山だけに、素晴らしい自然を満喫できる場所であり、「大崎市の宝」として位置付けて然るべきではないだろうか。 (2)かつては「遊歩道」があったらしいが今はないとの事。営林署と話し合い、一般市民

や自然を愛する人々が「山歩き」し自然を楽しめるように出来ないだろうか。

4、最後に

今回の私たちの調査視察にあたって、鳴子総合支所地域振興課の絶大なご協力があり、初期の視察目的を果たすことができました。

また、山に入って驚いたことに、営林署の職員さんが山への入り口を間違わないように赤のペンキで矢印をつけ、山道の藪を刈って歩きやすいようにしてくださってありました。

こうしたご協力に心から感謝申し上げます。

鎌内つぎ子議員は、正副議長就任挨拶回りのため、この調査視察には参加できなかったことをもうし添えます。

以 上

他会派との
合同実施

以 上

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
令和 6 年 10 月 17 日 提出

1. 視察概要

会 派 名	日本共産党大崎市議会議員団
視察者名	小沢和悦、木内知子、鎌内つぎ子、遊佐辰雄
視 察 日	令和 6 年 10 月 15 日
視 察 先	三重県松阪市
出 席 者	中島清晴議長、保護自立支援課岡本良博担当監、農水振興課西口敏弘課長ほか

2. 視察内容

視察項目	「視察項目その1」 生活困窮者対策と生活保護行政 1、生活困窮者の相談窓口として本庁舎及び支所等 8 箇所に「福祉丸ごと相談室」を設け職員一人プラスαを配置していました。 2、生活困窮者自立支援は一部を除き社会福祉協議会に委託。直営で「住居」と「貧困家庭児童生徒学習支援」を行っていました。生保世帯、就学援助世帯の子供さんを対象に土曜日に 2 ヶ所の無料学習塾を運営。元教員や大学生等 20 名が教師となり「貧困の連鎖」を防ぐため努力していました。 3、驚いたのは保護自立支援課の隣に「就労広場」を設け、10 年も前からハローワークより 2 名の職員を派遣していただいているとのこと。令和 5 年度で相談に 1、360 件、就職者 124 名の成果があったとのことでした。三重県松阪市とハローワークの協定があって実現したということなので、その協定書を送っていただくようお願いして参りました。
視察項目	「視察項目その 2」 松阪市独自の農業振興策 1、有名な松阪牛の評価を維持するため各種補助金制度を設け、市内松阪牛生産農家 74 戸の品質向上と経営支援を行っていました。（令和 5 年度補助実績 4,030 万円） 2、大崎市にない制度で「認定農業者等支援補助金」制度があり、令和 5 年度で 12 件に対し補助金が支給されていました。認定農業者数は 182 名。 3、「地域計画」づくりについては、この計画に位置付けられないと国の補助金対象にならなくなるので認定農業者を軸に策定中とのことでした。
他会派との 合同実施	

以 上

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
令和 6 年 10 月 17 日 提出

1. 視察概要

会派名	日本共産党大崎市議会議員団
視察者名	小沢和悦、木内知子、鎌内つぎ子、遊佐辰雄
視察日	令和 6 年 10 月 16 日
視察先	三重県津市
出席者	吉田博康副議長、津駅周辺道路空間整備担当 奥村昌弘参事、政策課梅本和嗣課長他

2. 視察内容

視察項目	「視察項目その1」 津駅周辺の賑わい創出について
視察内容	1、驚いたのは、駅周辺の賑わい創出事業が国、県、市の一体事業として取り組まれていることでした。 きっかけは令和 2 年 4 月の道路法改正で、三重県が県庁所在地津駅周辺の賑わい創出等三重県の玄関口らしくしたいとの思いから腰を上げ、三重県と市で「検討会」を設け、国土交通省にオブザーバーを頼みスタートを切ったことです。 それが今では国土交通省、三重県、津市で構成する「津駅周辺道路空間等再整備検討委員会」に発展していました。 2、現在「津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議」、「津駅東口周辺まちづくり懇話会」を設け、その意見を「検討委員会」にあげていただきながら事業を具体化しようとしているところでした。 国がバスタプロジェクト事業、県が「ほこみち事業」(県道の歩行者用道路空間の確保等)、津市が駅の東西の賑わいを創出すべく PPP 等活用も含め担うというもので、古川駅周辺の活性化、賑わい創出を課題としている大崎市としても学ぶところが多いと思って参りました。
視察項目	「視察項目その2」 人口減少対策について
視察内容	1、まず「なるほど」と思ったのは、担当が「子育て支援課」などではなく「政策財政部政策課」であることです。 そして見事に総合的な人口減少対策に取り組んでいることでした。 2、「まち、ひと、しごと創生総合戦略」において、いつまでにどこまで引き上げるかの目標数値を、テーマごとに設定して、それをやりあげている事に驚きました。 例えば、出生者数は平成 30 年度は 2080 人だったが、これを令和 6 年度には 2200 人までにすると、目標を達成していることです。 出生者数を増やすには結婚希望者が結婚できるようにすることですが、職員の若手から「出会い応援事業」プロジェクトチームを募集し、予算も付け、さまざまな魅力あるイベントを開催、平成 27 年度以降 90 組が成婚という実績を挙げていました。 また、移住、定住目標も平成 30 年度は転入超過数(転入数－転出数)1 名増でしたが、令和 6 年度目標を 100 名増と掲げ、なんとこの間 700 人を超えているということでした。 そのための工夫として例えば「空き家バンク事業」があります。これは、固定資産税賦課通知書を送る時、「津市空家有効活用推進事業補助金のご紹介」を一緒に同封し、売却希望があれば、写真を撮り、ネットでも見られるようにしていることです。 大変参考になる視察でした。
他会派との合同実施	

以上

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
令和 6 年 10 月 17 日 提出

1. 視察概要

会 派 名	日本共産党大崎市議会議員団
視察者名	小沢和悦、木内知子、鎌内つぎ子、遊佐辰雄
視 察 日	令和 6 年 10 月 16 日
視 察 先	三重県四日市市
出 席 者	伊藤嗣也副議長、太田紀子議員、村上さとの議員、議会事務局議事課岡田基司課長補佐他

2. 視察内容

視察項目	議会改革案について
視察内容	1、1 番に驚いたのは「議員間討議」が、極めて自然に行われていることでした。 議員定数 34 名で予算・決算特別委員会が分科会制でした。決算特別委員会の分科会が 3 日プラス予備日 1 日。質疑通告も発言制限時間もなし。委員が挙手で発言を求め質疑を行い、分科会の会長がこれは委員間討議にした方が良いと判断すれば「委員間討議」に入りますと宣告し討議が行なわれる方法です。 その結果、そこで一致した件は来年度予算編成の際、取り入れていただこうとまとめたものは「論点整理シート」に記入し、決算特別委員会に分科会として提出し、それが全体会で確定したものを正副議長と決算特別委員長から市長に申し入れ、委員長報告にも盛り込むとのこと。 議会基本条例には執行部に対し「提案尊重」努力義務規定があるのも驚きました。 さらに、予算議会前の「議案聴取会」の段階で、決算特別委員会から申し入れたことがどう扱われたかを報告していただいているとのこと。凄いと思いました。 2、議会としての政策提言の仕組みも驚きました。「議員政策研究会」の仕組みです。年度はじめ、各会派から政策化したいテーマがあれば提案していただき、全体会議で決まったテーマは原則 1 年を期限に論議を重ね、まとめたものを政策化するという仕組みです。正副議長が正副会長となり、テーマ別分科会の会長はテーマ提案会派から出していただくというものです。 3、議会基本条例には素晴らしい「逐条解説」があり参考になりました。また、常任委員会の委員長に月 1 万円、副委員長に 7000 円の手当があるということでした。 色々と参考になる視察でした。
他会派との 合同実施	

以 上

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
令和 7 年 2 月 1 日 提出

1. 視察概要

会 派 名	日本共産党大崎市議会議員団
視察者名	小沢和悦、鎌内つぎ子、遊佐辰雄
視 察 日	令和 7 年 1 月 28 日から 1 月 30 日まで
視 察 先	沖縄県的那覇市及び糸満市
出 席 者	第 20 回全国地方議員交流研修会実行委員会 北口雄幸共同代表ほか

2. 視察内容

視察項目	第 20 回全国地方議員交流研修会に参加し、議員同士の交流を含め、平和と市民生活、地方自治を守ることの重要性を学ぶ。
視察内容	【研修視察日程】 【1】令和 7 年 1 月 28 日(火) 9:00 大崎市出発 12:00 仙台空港発 ANA で沖縄県那覇市へ(前泊) 【2】同年 同月 29 日(水) ① 8:30 から 12:00 まで、沖縄県平和祈念資料館、平和の礎、ひめゆり平和祈念資料館を視察。 ② 13:00 から 17:30 まで、全国地方議員交流研修会全体会に参加(会場は琉球新報ホール) 記念講演:「沖縄、日本を再び戦場にしてはならない」 玉城デニー 沖縄県知事 問題提起:「戦後 80 年、私たちから平和をつくる」 羽場久美子 青山学院大学名誉教授 問題提起:「パフォーマンスでは済まされない—限界近づく農と食の危機」 鈴木宣弘 東京大学特任教授 特別報告:映画監督 三上智恵氏(基地に翻弄される沖縄の実態) 熊本県議 西 聖一氏(日中不再戦.平和友好推進) 北海道議 北口雄幸氏(食料自給率向上推進) ③ 18:00 から 19:30 まで、名刺交換会・交流会に参加(会場は沖縄県青年会館) 【3】同年 同月 30 日(木) 9:30 から 12:00 まで 全国地方議員交流研修会 沖縄県市町村自治会館及びパレット市民劇場を会場に行われた分科会参加 第 2 分科会 「農業・農村を守り、食料自給率を確立するために」 (小沢和悦議員出席) 第 3 分科会 「帰路に立つ日本の社会保障 地域ケアをどう支えるか」 (鎌内つぎ子議員出席) 第 5 分科会 「防災・復興、原発問題を考える 地域主体の再生へ」 (遊佐辰雄議員出席) 12:00 各分科会の会場を出発、那覇空港へ 那覇空港発 15:00 出発 ANA で仙台空港 17:15 着 大崎市着 19:40 で解散 【研修成果】 [1] 沖縄県平和祈念資料館・平和の礎等の視察で、沖縄県住民等の戦争犠牲者が人口の 4 分の 1 におよぶ 149,658 名という多さとともに、宮城県出身者が「平和の礎」に

	655 名も刻まれていることも知り、改めて沖縄戦の犠牲の酷さを認識することができました。 〔2〕 交流研修会の全体会、分科会では、講師の方々のお話や、他の地方議員の活動をお聞きし、世界の情勢と日本の平和に向けた努力のあるべき姿、農業・食料問題の危機的状況と打開への「つめ」がいま大事なことなどについて学んでまいりました。
他会派との 合同実施	

以 上